

令和7年度

教育委員会点検評価報告書
(令和6年度対象)

令和7年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和6年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 令和6年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（令和6年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和7年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和6年度 主な事業と経費及び成果等	33
IX	評価委員による点検・評価	39

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター副センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和7年7月29日（火）
- ② 令和7年8月 8日（金）

V 令和6年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

わになって みんなポカポカ 大鰐町

- ①助け合いで健やかな笑顔を育む
- ②豊かな心と学びの人を育む
- ③チームワークで活力ある生業を育む
- ④安全で住みやすいまちを育む
- ⑤持続可能なまちづくり体制を築く

（第6次大鰐町振興計画）

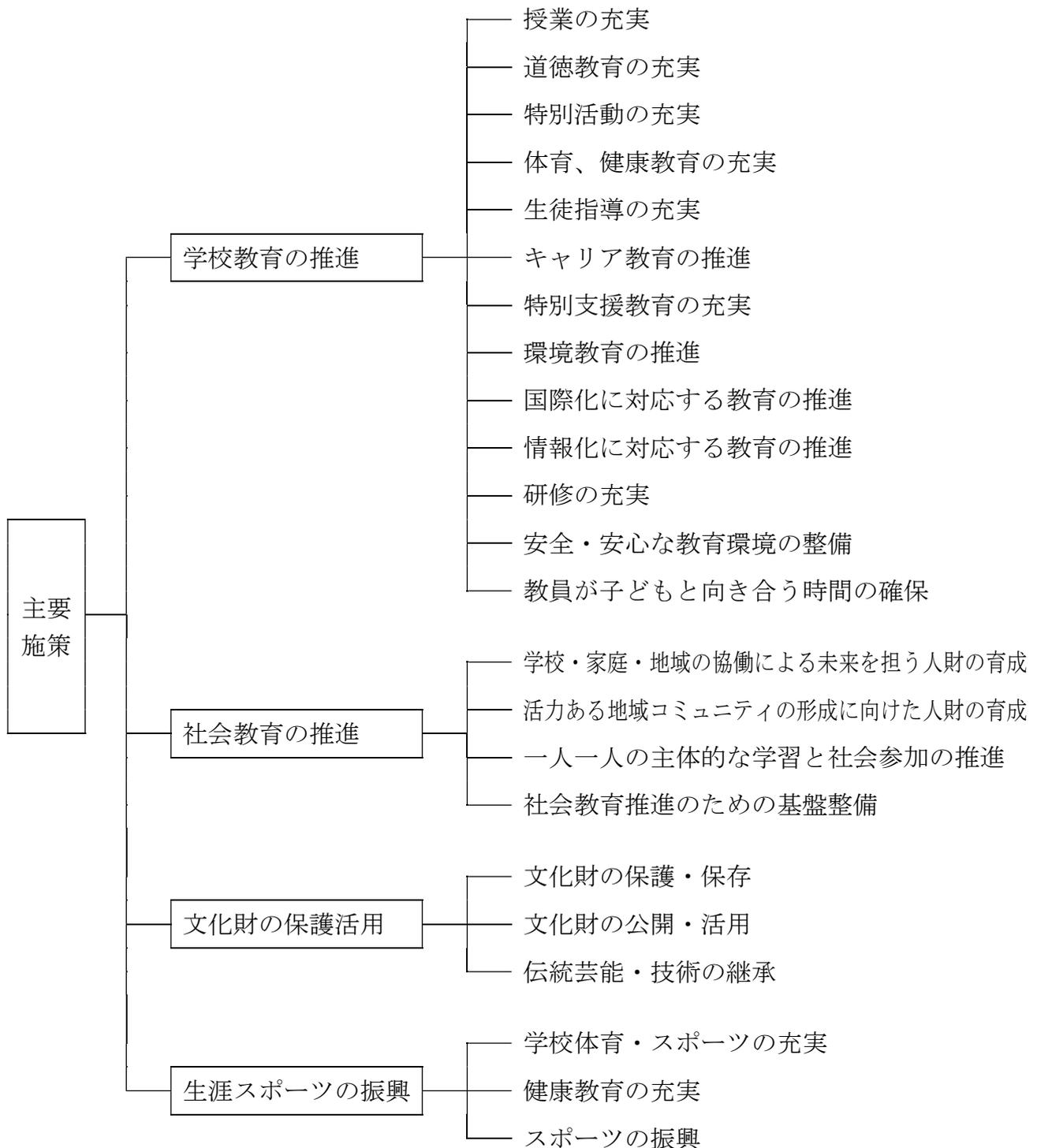
2 大鰯町教育委員会の基本方針

大鰯町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰯町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり

3 令和6年度大鰯町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（令和6年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	前田了二		R4.11.29～ R7.11.28	R4.11.29 就任
教育長 職務代理者	山口裕子	R3.12.25～ R7.12.24		R5.12.18 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R2.10.29～ R6.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	R4.7.13～ R8.7.12		H23.7.13 就任
委員	佐藤和之	R5.12.18～ R9.12.17		R5.12.18 就任

1-2 教育委員の構成（令和7年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	前田了二		R4.11.29～ R7.11.28	R4.11.29 就任
教育長 職務代理者	山口裕子	R3.12.25～ R7.12.24		R5.12.18 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R6.10.29～ R10.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	R4.7.13～ R8.7.12		H23.7.13 就任
委員	佐藤和之	R5.12.18～ R9.12.17		R5.12.18 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、令和6年度の定例会は12回開催している。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和6年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名	
第1回 定例会 4月3日	報告事項1 報告事項2 報告事項3	業務報告 大鰐町教育委員会・事務局職員名簿 大鰐町スポーツ推進委員の委嘱について
第2回 定例会 5月13日	報告事項1 議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号	業務報告 教育財産の取得申出の件 教育財産の取得申出の件 教育財産の取得申出の件 教育財産の取得申出の件
第3回 定例会 6月3日	報告事項1 報告事項2 議案第5号 議案第6号 議案第7号	業務報告 学校給食無償化について 大鰐町社会教育委員の委嘱について 大鰐町公民館運営審議会委員の委嘱について 大鰐町文化財審議委員の委嘱について
第4回 定例会 7月1日	報告事項1	業務報告
第5回 定例会 8月6日	報告事項1 議案第8号 議案第9号 議案第10号 議案第11号	業務報告 令和7年度大鰐町立大鰐小・中学校使用小・中学校用教科用 図書採択の件について 令和6年度 教育委員会点検評価報告書（令和5年度対象） について 大鰐町学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則 案 教育財産の取得申出の件
第6回 定例会 9月2日	報告事項1	業務報告
第7回 定例会 10月7日	報告事項1	業務報告

開催日	件名
第8回 定例会 11月11日	報告事項1 業務報告
第9回 定例会 12月2日	報告事項1 業務報告 報告事項2 議員全員協議会への報告案件について 議案第12号 学校給食費の改定に係る諮問について
第10回 定例会 1月14日	報告事項1 業務報告 議案第13号 教育財産の取得申出の件
第11回 定例会 2月4日	報告事項1 業務報告 報告事項2 学校給食費の改定について（答申）
第12回 定例会 3月3日	報告事項1 業務報告 議案第14号 大鰐町学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則案 議案第15号 令和6年度大鰐町文化活動表彰被表彰者の選考について 議案第16号 令和6年度大鰐町スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について 議案第17号 令和6年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加対象委員
令和6年 4月8日	大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	全委員
4月16日	南地方市町村教育委員会連絡協議会総会	黒石市富士見館	全委員
5月1日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月19日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
5月24日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
6月28日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
8月10日	大鰐町二十歳の集い	鰐 come	全委員
10月11日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	黒石市公民館	全委員
10月23日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
11月29日	大鰐小学校合唱・群読発表会	大鰐小学校	全委員
2月25日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月13日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月19日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月21日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>令和6年度は、児童の学力の実態、そして今日的な教育課題を踏まえ、校内研修テーマ「読解力を身に付け、考えを深める子どもの育成」のもと、サブテーマを「考え、表現する力を高める国語科・算数科の授業づくりを通して」と設定し、研修を継続的に実践した。学力調査の結果を考察すると、国語科及び算数科においては、概ね知識・技能の観点では全国平均を上回っている。また、対話的な学びを取り入れた授業改善が図られ、落ち着いた雰囲気、学び合いのある授業を展開できる学級が増えてきた。今後は、学級づくりと授業づくりを連動させ、学習規律、学習態度等の育成、そして学習形態を工夫し、協働的な学びを展開することにより、児童の多様な考えを生かした授業を展開できるようにしていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>諸検査による学習状況の把握、「ユニバーサルデザイン」「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点からの授業づくり、「単元指導計画」の工夫、「目標と指導と評価の一体化」を図った授業実践、家庭学習の内容と方法の工夫や習慣化な</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>どについて取り組み、生徒意識調査の結果では、授業への主体性と理解度、学習意欲が高まり、根気強く課題に取り組み、互いに学び合いをする生徒が増えている。また、全体的な知能検査では46であるが、NRTの学力偏差値は50でアンダーアチーブも減少しており、生徒の頑張りがみられる。</p> <p>学力の2極化がみられ、個への対応が課題である。</p>	
(2) 道徳教育の充実	<p>一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>週一時間の特別の教科道徳の時間においては、物事を多面的・多角的にとらえられるように、教科横断的な学習活動も含め、問題解決的な学習を行った。令和4年度からは、特別の教科道徳を水曜日の5時間目に全校で統一したことによって、全校一斉の全校道徳の時間を行うことも可能になった。</p> <p>全校集会でも、道徳教育の重点目標を意識した講話を取り上げ、道徳科での授業との関連性を図った。</p> <p>今後も道徳性を継続的に養えるよう、学校行事や児童会行事、集会活動の目標や目的を確認し、体験的な活動との関連性を意識した授業を大切にしていきたい。（別葉の活用）</p> <p>また、学習参観日にも、積極的に道徳科の授業を公開したり、人権教室を実施したりし</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>ていきたいと考えている。</p> <p>【中学校】 全校体制での実践、授業の充実とすべての教育活動との関連付けることによる道徳性の育成、規範意識の醸成と郷土愛や感謝と思いやりの心をもった生徒の育成を目指して、授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、教科書やワークシートを工夫しながら授業を行った。さらに、主任及び副担任、管理職も含め全員による道徳の授業実践に取り組んだ。 その結果、より多角的・多面的に生徒一人一人の豊かな心の育成に繋がった。</p>	A
(3)特別活動の充実	<p>一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 楽しく自己指導能力を育むことができる学校生活にするために、児童一人一人のアイディアを大事にししながら、自治的・自発的な活動ができるように、特別活動の計画・実践に取り組んできた。特に、ねらいに即した集会活動や縦割り班活動、学校行事を行うことができ、活性化が図られた。「ようこそ1年生の会」「全校遠足」は、リーダー育成の場になっており、また「6年生ありがとうの会」は、全校児童が感謝の気持ちを伝える場が設定されており、心情面でも大きく成長させるよい機会となった。 また、全校集会で学校生活の</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>課題を話し合い、児童の提案を学校運営にも反映させた。</p> <p>(中休みの時間：5分延長)</p> <p>今後も、集団や自己の生活上の課題を解決するために、合意形成を図ったり、意思決定したりすることを通して、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を学級活動、児童会行事や委員会の常時活動を通して養っていききたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>「間違いや失敗を許容し、お互いに応援し合える雰囲気づくり」「意図的な集団活動（縦割り、学年）による協働的な活動場面の計画的な設定」「集団活動において、ねらいと意義の確認、目標づくりや自己評価をする活動を通して、自己存在感・自己有用感を感受できるような取組の工夫の継続」に特に重点を置き、「鰯中宣言」の見直し、「縦割り班によるテーマ別分科会」、「リーダー研修会」等様々な取組を実践した。その結果、委員会活動の活性化やリーダーの主体性の向上に加え、全校生徒一人一人の自立心と自律心を高めることができた。さらに、運動会や鰯中祭などで、縦割りの活動を意図的・計画的に設定したことにより、生徒の「自己肯定感」「自己有用感」の向上に繋がった。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(4) 体育、健康教育の充実	一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>教科体育の充実を図るとともに、個に応じた課題を設定し、マラソンカードや縄跳びカードを活用したり、校庭の遊具や教具を設置し環境を整えたりして、意欲的に体を動かす機会を増やしている。また、個人差に応じた言葉掛けや意欲付けにも配慮している。(ポイント2倍デーの導入) その結果、朝の時間及び休み時間には、仲間と一緒に楽しく運動する児童が増えている。</p> <p>令和6年度も地域及び各学年の実態に応じた健康教育を各関係機関の協力をもとに行い、知識を獲得させたり、その様子を家庭に周知したりしながら、健康的な望ましい習慣を身に付けさせることができた。</p> <p>今後も、継続的に運動をする機会を設けるとともに昨今の健康教育の課題(メンタルヘルス、アレルギー疾患、性に関する指導 等)を見据え、家庭やPTA事業とも連携しながら取り組んでいきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>肥満傾向や基礎体力不足、生活習慣の乱れ、人間関係などのストレスを抱えるなどの課題が見られることから、「運動に親しむ資質や能力の育成を図る取組」「望ましい生活習慣や食習慣、ストレスマネジメント能力・アンガーマネジメント能</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>力を身に付け、自ら健康な生活を実践できる取組」「情報を正しく判断し、自ら安全を確保することができる取組」に重点を置き、保健体育や家庭科の授業において取り組むことで、「心身の健康づくり」の大切さと必要性を理解させることができた。</p> <p>また、生徒一人一人が安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるように、学校安全指導計画を基に、安全学習及び安全指導を含む安全教育に取り組み、大きな事故の未然防止に繋がった。</p>	
(5) 生徒指導の充実	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>生徒指導の実践上の視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を生かした授業を含め、日常の学校生活の中で、児童に対して共感的に指導・支援をしながら、児童の自己肯定感を高める教育活動を全教育課程で行った。児童や保護者の困り感や心配なことには、耳を傾け、誠実に対応するよう努力をしてきた。児童向けの教育相談(ふれあい相談)時には、事前アンケートを実施し、児童の思いに寄り添った生徒指導に取り組んだ。年3回の「情報交換会」では、適切な指導・支援及び組織的な対応ができるよう全職員で共通理解を図った。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>児童理解を深めるために、一人一人の児童と教師が向き合う（コミュニケーションができる）とともに、分かる楽しい授業づくりに努めていきたい。また、いじめや問題行動が大きくならないうちに未然防止を図る指導の重要性を確認する（生徒指導提要の改訂ポイント）とともに、小さな芽に対して早期発見・早期対応ができることを目指し、全教職員で全児童を多角的・多面的かつ組織的に指導・支援していきたい。</p> <p>また、不登校児童の安否確認・学びの保障という視点からも、オンラインでの健康観察・授業、A Iドリルの導入を図っていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>今年度の生徒指導の方針である、「子ども支援の視点に立った生徒指導」「困った（行動をする）生徒は、（課題を抱えて）困っている生徒」「学校内外の連携に基づくチーム学校による生徒指導」の3点に基づき取り組んだ。</p> <p>その結果、アセスや生徒意識調査では、先生と生徒及び生徒同士の人間関係が良好で、生徒は安心して楽しく学校生活を過ごしており、多くの生徒が先生方に信頼を寄せるとともに、心を許せる友達ができていた。</p> <p>不登校傾向及び別室登校の生徒については、生徒に対する</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>柔軟な対応や保護者・S C・関係機関との連携により、完全不登校生にはならず、登校が継続できるようになったり、学校行事等に参加できたりする生徒も増えた。</p> <p>また、校内外において、重大ないじめや問題行動が発生せず、全生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	
(6) キャリア教育の推進	<p>一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>キャリア教育の全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせ、目的をもって意欲的に学ぶ姿勢が身に付くよう指導してきた。</p> <p>「キャリアパスポート」を活用し、家庭や地域の協力を得ながらキャリア形成と自己実現に向けての指導を学年に応じてしてきた。町の清掃活動など5・6年生を中心にした OH!! 鱈元気隊キッズの活動を継続して行った。販売活動は、東京で行うことができ、児童も達成感いっぱい、故郷への愛情を育むことができた。</p> <p>また、PTA総務委員会が実施した「町活応援ワークショップ」は、看護師体験、介護体験、薬剤師体験、風船アート等、多種多様なジョブ体験ができ、参加した児童、保護者から好評であった。</p> <p>今後も各学年、各教科の中で</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		郷土学習に継続して取り組んで行くとともに、各種関係団体と連携・協働し、個に応じたキャリア教育につながるよう実践を積み重ねていきたい。	
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確にしなが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習を関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」に気付けるように工夫した。今年度は「地域の今と未来をつなぐキャリア教育事業」の一貫で1学年「はたらく人との対話集会」、自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会としての全校を対象に「キャリア講話」も実施した。</p> <p>また、年度当初に全生徒がDream Boardに「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。</p>	A
(7) 特別支援教育の充実	<p>発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童の個性を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の指導計画」「個別の支援計画」に基づいた支援をしてきた。児童理解をし、合理的な配慮をし、保護者との面談も定期的に行った。その結果、保護者の学校側への理解が深まり、信頼関係を基軸としなが、支援の在</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>り方などを随時共有することで、児童の望ましい成長を促進させることができた。また、在籍及び交流学級間の担任による日常的な情報交換もしっかり行った。</p> <p>具体的な支援を実施すること、家庭との連携を密にすること、関係機関との連携を図ること、教職員の研修を充実することなど、今後も児童や家庭を支援する体制を継続させていきたい。</p> <p>通常学級に存在する困り感を抱く児童、そして保護者の相談にも迅速に対応できるよう、さらにSC、SSW、関係機関等との連携を強化していきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>町の教育支援委員会や小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議で一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて教育支援員によるTTの実施</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		など迅速かつ柔軟に対応した。	
(8)環境教育の推進	一人一人の子どもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。	<p>【小学校】 児童にとって日常的に安全・安心な中で学校生活を送れるように、人的・物的環境を整えてきた。令和6年度も、畑やフラワーポットで、各学年に応じた花や野菜を育てることを通して、環境に対する感受性を育んできた。低学年では学校探検や町探検、中学年では町の産業や自然、高学年ではわがまち自慢や町の歴史などを学ぶ学習活動を通して、環境に対する意識を授業の中で培ってきた。また、学校・家庭、地域社会が連携しながら、年に2回ではあるが、資源回収を行ったり、校内の環境美化計画をもとに教室の美化、掲示板の充実を図ったりした。</p> <p>今後も、身近にある自然の豊かさや社会環境に触れさせることができるよう日常の授業の中に体験活動を積極的に取り入れるとともに、愛校心を育むため、清掃活動にも力を入れていきたい。</p> <p>【中学校】 新入生によるつつじ記念植樹、町内清掃ボランティア、校内清掃ボランティアなどを企画・実施した。</p> <p>また、生徒による日常の清掃活動は丁寧に行われるとともに、空き教室の整理整頓が徹底され、教室や廊下には生徒の振</p>	<p>A</p> <p>B</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>り返りや作品などの学習の足跡が掲示されるなど、望ましい学習環境が整えられている。</p>	
(9) 国際化に対応する教育の推進	<p>一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 3・4年は週1時間、5・6年は週2時間の外国語活動及び外国語の時間を最大限に生かしてきた。町のALTを積極的に活用したり、動画や写真資料を見ながら学んだりすることで、コミュニケーションを図ったり、文化の違いに触れさせたりすることができた。諸外国の文化に触れること、言語を学ぶことを通して、多様性を身に付けさせてきた。</p> <p>今後も多様な文化に触れ、物事を多角的・多面的に見る視点をもつとともに、地元のまつりやイベントに積極的に参加し、故郷を愛する心を育てていきたい。</p> <p>【中学校】 校内に常勤のALTがいる恵まれた環境にある。生徒は授業だけでなく、昼休み休憩室での交流などで日常的にALTと接している。また、英語弁論大会等の指導にも尽力してくれており、生徒の国際理解を深め、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。</p>	<p>A</p> <p>A</p>
(10) 情報化に対応する教育の推進	<p>一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルに関わる指導の充実を図り、系統的・体</p>	<p>【小学校】 令和2年度に整備した一人一台のタブレット端末を活用し、授業の中で活用すること</p>	<p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	<p>系的な情報教育の推進に努める。</p>	<p>が、日常化しつつある。（考えの共有、作品づくり、レポート提出 等）</p> <p>5年生では、時代のニーズに応えるため、簡易ロボットを操作するプログラミングの出前講座を実施した。</p> <p>情報モラル教育では、中学校区で連携した「大鰐小・中学校ゲームやスマホの『五つの約束』」を家庭に啓発し、全学年で情報モラル教室を実施した。</p> <p>今後も、各教科のどの場面でもどのようにICT機器を効果的に活用するのか、何のために用いるのかを吟味していくとともに、複雑化し見えにくくなっているSNSの使用も含めて情報教育の指導計画を見直しながら活用していきたい。</p> <p>【中学校】</p> <p>タブレットや電子黒板、デジタル教科書を各学年で使い、各教科・領域の授業だけでなく学校行事などで効果的に活用できている。さらに、AI型ドリルを導入して活用することで、生徒の意欲向上に繋がった。</p> <p>また、教職員も校務用PCや校務支援システムを活用することで、事務負担の軽減と多忙化解消に繋がっている。</p> <p>情報モラル教育については、①教頭による情報モラル教室の実施、②小中連携での取組「ゲームやスマホの『五つの約束』」の活用と配布、③全校朝</p>	<p></p> <p>A</p>

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		会や学年集会での注意喚起を行った。	
(11) 研修の充実	教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。	<p>【小学校】</p> <p>校内研修において、全教員、全学級による提案授業を実施し、組織的かつ継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図ってきた。働き方改革の視点と授業そのものの充実を図るため、指導案は簡略化（A4版1枚）しているが、その代わり言語活動の充実と児童一人一人の個別最適な学びの保障を目指して、一人一授業を展開した。今年度は、研修主任の発案によるより負担を軽減化したプチ授業（指導案なしでの授業公開）も展開され、気軽に授業公開、授業参観できる雰囲気醸成された。研究授業後には、ワークショップ型の協議会を開いたことで、職員の主体的な学びが見られた。校外の研修への参加も、可能な限り奨励してきた。</p> <p>大鰐小学校の職員の優れたところは、互いに学び合い、高め合うことで、自分で得た技術を他の職員にも共有し合えるところであり、児童によい影響を与えている。</p> <p>（12月：実践交流会実施）</p> <p>今後も研究授業や研修で得た学びを普段の授業で活用し、向上心をもって授業改善に取り組むよう研修を充実させていきたい。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>【中学校】</p> <p>校内研修のテーマ「自ら考え、共に学びを深められる生徒の育成」～個を大切にし、学び合う学習活動を通して、考えを広げ深める授業づくりを目指して～を基に、指導主事等による計画訪問や要請訪問、一人一公開授業、教職員全員による道徳の授業実践、e ラインズによるA I 型ドリルに付いての研修、中南地区連携推進協議会を活用した「インクルーシブ教育」の校内研修会、校外研修(県教育センター、中南教育事務所等)などへの積極的な参加を促すなど取り組んできた。</p> <p>その成果として、生徒意識調査等における生徒の授業に取り組む意識の向上、授業参観者からの授業づくりの取組を高く評価するコメント、学校評価結果が高評価であったことが成果として挙げられる。</p>	A
(12)安全・安心な教育環境の整備	学ぶ意思のある子どもたちが安全・安心に教育を受ける環境づくりを推進する。	<p>【小学校】</p> <p>学校安全(生活、交通、災害)計画をもとに、各教科・各領域で横断的な安全学習・安全指導を実施するとともに、避難訓練、交通安全教室等の学校行事を通して、いのちを守ることの大切さ、危険回避能力の育成を、発達段階ごとに教授することができた。</p> <p>文科省の危機管理マニュアルの作成手順に従い、本校の危</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>機管理マニュアルの見直し・改善を図った。</p> <p>(R 7年度改訂版で周知予定)</p> <p>町保健福祉課、警察機関等と連携し、SOSの出し方教室や、不審者対応訓練を実施し、対処方法を確認することができた。</p> <p>就学援助等が必要な保護者に、随時情報提供できるようにした。</p> <p>今後は、危機管理マニュアルを保護者にも周知できるようにしていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>生徒指導記録簿を活用した職員室内での情報共有、学年・主任会議での情報交換などを推進することで、いじめや不登校等の未然防止・早期発見・対応など効果的に取り組めた。</p> <p>また、各学年の発達段階に応じた安全教育を計画的に実施したことで、生徒の意識向上に繋がった。</p> <p>施設等の安全管理は、日常での点検に加えて、月に1回の安全点検、教育委員会との連携により、迅速な対応ができた。</p>	A
(13)教員が子どもと向き合う時間の確保	<p>教職員が心身にゆとりを持って子どもと向き合う時間を確保することにより、子どもたちがきめ細やかな指導を受けられる環境づくりをする。</p>	<p>【小学校】</p> <p>学校改善レシピ(校長作成)を作成し、時期を区切り、見通しをもちながら働き方改革を推進することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席フォームの導入 ・通知表の簡略化(第一弾) ・学校文集の休止 	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>(フォーマットを替えて継続予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートフォームの活用 ・職員朝会の廃止 ・ペーパーレス化に向けた準備 ・A I ドリル導入に向けた準備 ・自動採点システムに向けた準備 (情報収集) ・高学年教員の負担軽減化 (専科教員の活用) ・部活動の地域移行・展開 (段階的に実施予定、外部講師の処遇の検討) <p>今年度は、学校外部を中心に改善を図ったが、次年度は、学校内部を中心に、業務内容の見直しを図りながら、働き方改革をさらに力強く推進していきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>部活動の地域移行 (クラブ化) と部活動の精選、部活動指導員・外部コーチの配置、部活動顧問の複数配置により、負担軽減に繋がった。</p> <p>また、校務支援システムの活用、会議資料の電子データ化など I C T を活用した校務の効率化を推進することで、事務作業の効率化が進んだ。</p> <p>町教育支援員が 3 人配置されたことで、授業補助や別室登校への対応、学年掲示の整備等の負担軽減に繋がり、きめ細かな指導をすることができた。</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>時間外勤務時間の削減のために、行事の精選や教育課程、業務内容の見直しが課題である。</p>	

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	ふるさと子ども教室において、大鰐町の特色を活かす体験活動事業として、アウトドア満喫編では、マス釣り、火起こし、炊事等を実施した。また、冬休みには、郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を社会教育委員の協力を得ながら実施した。大鰐町の特色を活かし、子どもたちが故郷への関心と知識を高める体験活動になった。更に町の良さを体感できる事業を展開していきたい。	A
	地域が支えるキャリア教育の充実	<p>小学6年生10名が地場産品の販売・宣伝等の体験のため東京のアンテナショップで活動した。販売・宣伝等の体験やPR交流を通じて様々な仕事の存在を知ることができた。</p> <p>また、地域で働く大人が学校で自らの職業講話をすることでキャリア教育の一端を担った。</p> <p>今後も地域への愛着心を醸成する体験活動を実施していきたい。</p>	A
	こどもの読書活動の充実	<p>図書管理システムにより、小中学校においては児童・生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となったほか、話題性の高い本の情報収集が迅速に行われることが可能になったため読書活動の充実の一助となっている。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>また、公民館図書室においても、話題性のあるものや要望のあったものをその都度調達するとともに、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努めた。</p> <p>更に、放課後子ども教室においても読み聞かせ活動を定期的に実施し、多くの本に触れる機会を設けている。</p> <p>令和7年4月に第4次大鰐町子ども読書活動推進計画を策定した。</p>	
	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実</p>	<p>地域の方を講師として小中学校での出前俳句教室の指導を行っているほか、通学指導員及び大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営においても地域全体で子どもを見守っている。民間交番の運営においては若手後継者が不足していることから確保・育成が急務となっている。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実</p>	<p>放課後等にこどもが安心して活動できる場の確保と心豊かで健やかに育まれる環境づくりとして放課後子ども教室を実施している。サポーター養成のため、県主催の研修会に参加するなど、充実した家庭教育支援ができる体制づくりに力を注いでいる。</p> <p>また、5年ぶりに家庭教育講座を実施したが、参加者が少なかつたため広く家庭教育を推</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		進していきたい。	
(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	地域活動実践者の育成	コミュニティ・スクールを導入しているため、各学校で学校運営協議会を運営、教育委員会で地域学校運営協議会を運営し、地域コーディネーターを選出した。地域コーディネーターが学校や地域と連携しキャリア教育活動等の総合的な調整を図ることができた。	A
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成	地域活動を実施している団体代表者や個人からの相談や連絡を受け、地域イベント等に対する参加や協力を行い、地域の次代を担う若者の育成につなげることができてきている。 今後は多くの団体や個人を支援できるよう、地域コーディネーターの存在を町民が分かるよう周知を図っていきたい。	A
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	令和6年度もふるさと子ども教室を開催し、地元講師の活用をすることができた。 また、町内イベント等に様々な形で社会教育団体やその会員が協力している。 団体等に対して町内のイベント等に関わってもらうことでつながりをつくり出していきたい。	B
(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援	成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において町内外の機関からの協力を得て講師派遣等の支援を受け、学習の機会を設けた。	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>参加者から要望の多かった学習内容について改めて学習機会を準備するほか、多様な学習活動ができるよう取り組むことができた。</p>	
	<p>学習成果を生かした社会参加活動の支援</p>	<p>成人大学では、健康運動、歴史、終活、消費者トラブル講座等を幅広い分野で開催した。学習成果を発揮できる場を町内に限らず探し、周知等ができるよう近隣市町村の情報まで視野を広げていきたい。</p> <p>また、清掃、花植え活動やスキー場の草刈りボランティアは関係機関から各年代が参加し、地域ぐるみの社会参加活動となっている。</p>	B
(4) 社会教育推進のための基盤整備	<p>社会教育推進体制の充実</p>	<p>町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見を基に事業内容の見直しを図ってきた。</p> <p>また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、速やかに対応・改善等を図る体制づくりをしていきたい。</p>	B
	<p>社会教育施設の機能の充実と活用の促進</p>	<p>図書管理システムの導入から9年が経過し図書室利用者の増加、県立図書館との相互貸借により多く町民が図書に親しむ体制が整備している。</p> <p>令和5年11月から令和6年9月までの間、耐震補強工事を実施し、防災の観点からも機能の充実を図ることができた。</p> <p>公民館運営審議委員の意見も取り入れながら更なる機能</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		の充実と活用の促進をしていきたい。	
	社会教育関係職員の養成と資質の向上	<p>社会教育関係事業に関する各種会議へ積極的に職員の派遣を実施した。今後も積極的に各種研修等に職員を参加させることにより資質の向上に努めたい。</p> <p>また、社会教育主事の計画的な養成にも努めていきたい。</p>	B
	社会教育関係団体等の活動の支援	<p>各社会教育団体への補助金の交付や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。</p> <p>今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。</p>	A

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	<p>板碑の標柱の損傷が激しく計画的に修繕を進めている。令和6年度は居士熊野神社所在の「いちょう」の標柱修繕及び樹木診断を実施した。今後修繕を控える各標柱等の状況を適切に把握し、優先順位を設定しながら引き続き保護及び保存活動を実施していきたい。</p> <p>また、区会で所有していた町指定天然記念物「黒サンショウウオ」に係るビデオをDVDへダビングし、次代へ伝えるための保存に努めた。</p>	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	<p>小学校の授業の中で町内を探検する際に実際に文化財を見て学んでいる。</p> <p>また、青森県埋蔵文化財調査センターで作製した「あおもり縄文カード」が公民館に設置されており、町民のみならず多数の人が町内の文化財を知るきっかけになっている。</p>	B
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	<p>町文化祭で県指定文化財である三ツ目内獅子踊りや町指定文化財である登山囃子を披露する機会を設けた。</p> <p>各伝統芸能保存団体より、後継者の減少の声が聞かれていることから、募集活動の支援を検討していきたい。</p>	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校体育・スポーツの充実	<p>児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。</p>	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童・生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和6年度は、雪不足もなくスキー場の営業期間も通常通りとなり、527人(前年比216人)が利用し、多くの児童生徒が地域の特色であるスキーに親しみ、冬季スポーツに触れる機会を創出した。</p>	A
(2)健康教育の充実	<p>児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。</p>	<p>町給食センター栄養教諭及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>令和6年度は、前年度以上の地場産品を取り入れることができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。</p>	A
(3)スポーツの振興	<p>町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。</p>	<p>大鰐町を代表するスキー競技は、令和7年度の冬には第80回国民スポーツ大会冬季大会の開催地になるため、各競技団体からの要望などを参考に国スポ開催に向けて準備を進めている。大会時に事務局として使用する予定の旧大鰐第二</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>小学校施設についても必要な設備を整えてきた。</p> <p>虹貝多目的広場は、利用者が安心・安全に利用できるよう環境整備を実施した。</p>	

Ⅷ 令和6年度 主な事業と経費及び成果等

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等																		
特別支援教育推進事業	17,720	小、中学校の普通学級に在籍する学習障害や多動傾向等により特別な配慮を必要とする児童生徒の学校生活の支援を行うため、教育支援員を配置。	小学校に3人、中学校に3人の支援員を配置し、支援が必要な児童生徒に手厚い対応を行うことができた。																		
A L T 招致事業	5,946	<table border="0"> <tr> <td>人件費</td> <td>3,876,971 円</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>328,580 円</td> </tr> <tr> <td>需用費</td> <td>700,886 円</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>194,436 円</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>187,000 円</td> </tr> <tr> <td>住宅借上</td> <td>97,695 円</td> </tr> <tr> <td>備品購入費</td> <td>98,780 円</td> </tr> <tr> <td><u>負担金</u></td> <td><u>461,121 円</u></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,945,469 円</td> </tr> </table>	人件費	3,876,971 円	旅費	328,580 円	需用費	700,886 円	役務費	194,436 円	委託料	187,000 円	住宅借上	97,695 円	備品購入費	98,780 円	<u>負担金</u>	<u>461,121 円</u>	計	5,945,469 円	<p>中学校に外国語指導助手を配置することによって、生きた英語を体験することができる。また、スピーチコンテストや英検の面接の練習を手伝い、リスニング及びスピーキング能力の向上に寄与した。</p> <p>また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。</p>
人件費	3,876,971 円																				
旅費	328,580 円																				
需用費	700,886 円																				
役務費	194,436 円																				
委託料	187,000 円																				
住宅借上	97,695 円																				
備品購入費	98,780 円																				
<u>負担金</u>	<u>461,121 円</u>																				
計	5,945,469 円																				
スクールバス運行事業	9,807	<table border="0"> <tr> <td>長峰・駒ノ台方面</td> <td>3,483,480 円</td> </tr> <tr> <td>島田・早瀬野方面</td> <td>2,768,920 円</td> </tr> <tr> <td><u>居士・三ツ目内方面</u></td> <td><u>3,553,660 円</u></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,806,060 円</td> </tr> </table>	長峰・駒ノ台方面	3,483,480 円	島田・早瀬野方面	2,768,920 円	<u>居士・三ツ目内方面</u>	<u>3,553,660 円</u>	計	9,806,060 円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の登下校の安全を確保することができた。										
長峰・駒ノ台方面	3,483,480 円																				
島田・早瀬野方面	2,768,920 円																				
<u>居士・三ツ目内方面</u>	<u>3,553,660 円</u>																				
計	9,806,060 円																				
小学校改修事業	3,457	灯油地下タンク内面ライニング工事 3,456,200 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等及び教育環境の適正な維持管理が図られた。																		

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
中学校校舎暖房 機更新事業	4,312	<p>大鰐中学校の既設暖房機器は平成22年度に設置したものであり、現在メーカーでは部品の取扱いが終了しているため、修繕が生じた際は使用頻度の低い機器を部品の流用元とすることで対応している。将来的には既存の暖房機器の使用が困難となり、冬期間における生徒及び教職員の健康及び学校生活に支障をきたす恐れがあるため、暖房機の計画的な更新をする。</p> <p>令和6年度 校舎3階 11台 令和7年度 校舎2階 15台 令和8年度 校舎1階 16台</p>	<p>暖房機を更新することにより、生徒及び教職員が安心して暖かく過ごすことができる環境を整備することができ、心身ともにより充実した学校生活を送ることができた。</p>
生きる力育成事 業補助金	1,096	<p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。</p> <p>大鰐小 681,000円 大鰐中 415,000円 計 1,096,000円</p>	<p>小学校では鰐っこ暗唱詩集を作成し、文芸作品を暗唱させることで、文学的興味や関心を高めるとともに、豊かな心を育むことができた。また、スキー教室の実施に当たり、スキー指導講師及び設整備を依頼し、児童が恵まれた環境でスキーを学ぶことにより、ふるさとへの愛着を育むことができた。</p> <p>中学校では、問題集の購入や実力テストを実施し分析することで、学力の向上を図ることができた。また、総合的な学習の時間において、いのちの健康</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				教室を実施し、誰もがみんな大切な命であることに気づき、生まれてきたことに感謝の気持ちを抱かせることができた。また、キャリア講話では、Uターン企業者を講師に招き、生き方を深く考えるきっかけとなった。
スポーツ・文化活動支援事業		2,387	<p>小、中学校におけるスポーツ・文化活動の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助する。</p> <p>小学生のスポーツ及び文化振興を図るため1人当たり3千円まで助成金を交付する。</p> <p>大鰯小 2,132,000 円 大鰯中 255,000 円 計 2,387,000 円</p>	<p>大会に参加する際の経費について補助することにより、トップレベルの競技を体感でき、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。</p> <p>小学生のスポーツ・文化活動に係る会費や大会参加費に対し助成することにより、小学生のスポーツ及び文化振興を図ることができた。</p>
小学校扶助費		4,702	<p>特別支援就学奨励費</p> <p>学用品費等 93,490 円 給食費 57,150 円 計 150,640 円</p> <p>就学援助費</p> <p>学用品費等 1,335,506 円 給食費 996,000 円 遠距離通学費 2,220,090 円 計 4,551,596 円</p>	<p>【就学援助費・特別支援就学奨励費】</p> <p>経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者等に対して、教育を受ける上で必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことによ</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
中学校扶助費		2,620	特別支援就学奨励費 学用品費等 80,865 円 給食費 40,320 円 計 121,185 円 就学援助費 学用品費等 1,595,930 円 給食費 398,400 円 遠距離通学費 504,860 円 計 2,499,190 円	り、義務教育の円滑な実施がなされた。 ◇扶助対象者 小学生 47 名 中学生 19 名 【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 ◇扶助対象者 小学生 50 名 中学生 8 名
放課後子ども教室推進事業		1,480	放課後子ども対策事業 教育活動サポーター、コーディネーター謝礼金等	中央公民館で、小学校の長期休業中を除く月曜日から金曜日の放課後に実施。放課後における子供の安全、安心な居場所づくりと、学習支援及び体験活動を実施することができた。
中央公民館改修事業		88,275	中央公民館耐震改修工事 86,680,000 円 " 工事監理業務 1,457,500 円 中央公民館防火設備改修工事 137,500 円	大鰐町中央公民館耐震補強外工事（令和5年度～6年度）の実施及び防火設備工事を実施した。
各体育団体補助金		2,030	町スポーツ協会補助金 1,190,803 円 県民駅伝競走大会補助金 497,093 円	青森県民駅伝競走大会において、これまで練習した成果を発揮

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				有意義な大会となった。
国民スポーツ大会冬季大会施設整備事業		187,565	設計業務委託 20,592,000円 圧雪車、スノーモービル購入費 122,140,381円 工事費 22,814,000円 計測機器購入費、消耗品他 22,018,282円	今年度はクロスカントリー管理棟改修工事、クロスカントリーコース内のブリッジに防風対策用メッシュシート設置工事を行った。 設備環境として圧雪車、スノーモービル、計測機器を購入したほか、次年度行われる各工事の設計業務委託を行った。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

- ・ 毎月一回の定例会の会議が開催され、事務局からの報告を受けるとともに、適宜議案について熱心な討議が行われている。議案は小・中学校の教科書採択など、教育行政において重要な案件が討議されている。また教育委員の活動として、小・中学校の入学式や卒業式・運動会といった学校行事に出席するとともに、適宜学校訪問をし、現場との交流が図られている。さらに、管内の教育委員を対象とした研修会などにも参加し、資質の向上に努めている。概ね適切に委員としての職務が執り行われている。
- ・ 定例会が計画的に開催されている。その中で教育長の業務内容が報告され、教育委員間で内容の共有化がなされている。なお、学校教育の推進の項目に「安全・安心な教育環境の整備」と「教員が子どもと向き合う時間の確保」が新設されたが、本委員会においてもそれに向けた取り組みが前向きになされている。

【学校教育の推進について】

- ・ 「授業の充実」の項目では小・中学校ともに一人ひとりの生徒に対応し、学力向上を図る取組がなされている。「道徳教育」でも工夫された教育活動が追求されている。「特別活動」では生徒の自立性・社会性を育む上で大きな成果を上げている。「いじめ」「不登校」への対応も適切になされており、「キャリア教育」では地域の住民、団体の協力を得て優れた実践を行っている。全体として大きな教育効果を上げていると評価できる。
 今後は地球温暖化への対応や、生成 AI の技術発展に対応した教育の充実が求められている。
- ・ 「授業の充実」については、小学校では「読解力を身に付け、考えを深める児童」、中学校では「個別最適な学び、協働的な学びを深める生徒」を育成することを目指して、教員間で共通理解を図りながら取り組んでいる様子が伺われる。その結果、小中学校ともに N R T の学力検査において全国平均を上回るなど成果を上げている。小学校においては、対話的な学びを取り入れた授業改善が図られ、落ち着いた雰囲気での学び合いのある授業が展開できている。また中学校では、授業への主体性と理解度、学習意欲が高まり、根気強く課題に取り組む互いに学び合いをする生徒が増えてきている。その中で、全体的な知能検査では偏差値 46 であるが、N R T の学力検査は偏差値 50 を超え、アンダーアチーバーが減少するなど指導の成果が顕著である。課題としては、小学校は学習規律や学習態度等の育成、中学校は学力の 2 極化への対応を挙げている。今後も小中学校の系統性をさらに高め、個への対応を図りながら協働的な学びを深める授業改善に取り組んでほしい。

「生徒指導の充実」については、小中学校ともに重大ないじめや問題行動が発生していない。そのことから教員と生徒の良好な信頼関係をもとに、落ち着いた学校生活を送っている様子が伺われる。

小学校では、共感的に指導・支援しながら児童の自己肯定感を高める教育活動を全教育課程で行うことによって成果を上げているが、今後さらに児童理解を深めていくために、「分かる楽しい授業づくり」に取り組むことを掲げている。また、不登校児童の安否確認や、学びの保障という視点から、オンラインでの健康観察や授業、AIドリルの導入を目指している。いずれも一人一人の児童に焦点をあてた前向きな計画であるが、実施にあたっては担任を含めた教職員で役割分担をするなど全校的な運営をしていただきたい。中学校では、「子ども支援の視点に立った生徒指導」「困った行動をする生徒とは、課題を抱えて困っていると教師が理解する生徒指導」「学校内外の連携に基づくチーム学校による生徒指導」の3点を職員間で共有して取り組んでいる。その結果、「学校環境適応尺度アセス」「意識調査」などにより、教員と生徒や生徒同士の人間関係が良好で、安心して学校生活を過ごしていることが明らかになるなど、生徒指導上の成果を上げている。また、不登校傾向及び別室登校の生徒についても、保護者・スクールカウンセラー・関係機関との連携により、完全不登校にならずに学校行事等に参加できる生徒も増えている。今後も小学校との連携をさらに深め、全教育活動を通じた生徒指導を継続してほしい。

「キャリア教育の推進」については、小学校で上級生を中心にした「OH！鰐元気隊キッズ」による活動を通して、町の清掃活動や東京での販売活動を継続的に取り組んでいる。また新たにPTA総務委員会が町保健福祉課と連携して、看護師体験・介護体験・薬剤師体験などの「町活応援ワークショップ」を実施した。中学校では、県総合社会教育センターとの連携で「はたらく人との対話集会」（1学年）を行い、また自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会として「キャリア講話」（全校）も実施した。このように県や町の関係機関と連携した取り組みにより、児童生徒は多種多様な考え方や生き方をする方々との触れ合いが広がると思われる。また学校側にとっても人材活用面での負担減となり、このことは今年度新設になった「教員が子どもと向き合う時間の確保」にもつながるものと考えられる。今後も様々な機会を設けて、児童生徒が自己実現できるよう能力や態度を育てていただきたい。

【社会教育の振興推進について】

- ・ 「青少年の体験活動の充実」という項目や「地域が支えるキャリア教育の充実」という項目では多様な活動が追求されており、多大な成果を上げている。また、子どもの読書活動を育み、地域活動の人材の育成でも大きな成果をあげている。「社会教育施設の機能の充実と活用の促進」で多大な成果を上げている。全体としてみれば、公民館を拠点

とした活動が大きな成果を上げているが、今後はより一層住民一人ひとりの学びを育み、学びを生かした実践、住民同士、住民と行政・関係団体等との連携を強めていただきたい。

- ・ 「青少年の体験的活動の充実」を図るために、ふるさと子ども教室において、マス釣り・火起こし・炊事等（アウトドア満喫編）に取り組んでいる。また郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」も実施している。大鰐町の自然や文化環境を活かした本体験活動は、児童生徒の健全な成長発達に大きく関わっていくものであり、今後も継続して取り組んでいただきたい。

「地域全体で子どもを育む活動の充実」については、小中学校での「出前俳句教室」への講師派遣、通学指導員の配置、青少年健全育成連絡協議会による駅前民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営をしている。これらの事業は、児童生徒が町を身近に感じるとともに、安心して地域生活を送るために重要であるが、実際には若い後継者が不足しており関係機関・団体と連携しながら総合的な育成を急ぐ必要がある。

「学習成果を生かした社会参加活動の支援」として、成人大学では、健康運動、歴史、終活、消費者トラブル講座等を開催しているが、成人期や高齢期の方々にとって興味深く社会生活の充実を推進するものであり、今後も工夫したプログラムを企画し運営していただきたい。

【文化財の保護活用について】

- ・ 「文化財の保護・保存」では、板碑の標柱の修繕を行うとともに、町指定天然記念物のビデオをDVDにダビングするといった活動を行い、確実に成果を上げている。「文化財の公開・活用」と「伝統芸能・技術の継承」では、学校教育の一環として利用したり、伝統芸能を披露する場が設けられ、一定の成果が上がっている。今後は地域の自然や歴史・文化などを広く学ぶ中で地域の文化財を捉え直す必要があるのではないか。また高度成長期まで継承されてきた生活文化に焦点を当て収集保存を図る必要があるのではないか。
- ・ 文化財の活用状況については、小学校の授業において実際に町の文化財を見学している。また青森県埋蔵文化センターで作製した「あおもり縄文カード」が公民館に設置されており、文化財に親しむきっかけになっている。伝統芸能については、町の文化祭において県指定文化財である「三ツ目内獅子踊り」と町指定文化財である「登山囃子」を披露する機会を設けた。今後も小中学校や関係機関と連携しながら、このような機会を増やして後継者の育成も含めて取り組んでいただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

- ・ 「学校体育・スポーツの充実」では、児童生徒が主体的に運動に親しみ、資質能力を高めることがはかられており、またリフト券の補助が行われている。「健康教育の充実」では、町給食センター栄養教諭と学校担当教諭が連携し、地元の食材を活用して優れた食育活動を行っている。「スポーツの振興」では、第 80 回国民スポーツ大会のスキー競技会場となることから、その準備を進めてきた。今後は町民一人ひとりの条件に対応した運動の追求、また運動・スポーツを通じた他者とのふれあい（交流）を追求していただきたい。
- ・ 町内児童生徒に対してスキー場リフト券の助成をしているが、6年度は527人（前年比216人増）の利用につなげている。今後も小中学校や関係機関とも連携し、児童生徒や町民の興味関心に沿った形での取り組みを進めていただきたい。
また、令和7年度に国民スポーツ大会冬季大会を控えているが、主催当局と地元大鰐町の特色を活かした有意義な大会になるよう準備を進めていただきたい。